

日本語学校が日本語 E ラーニングの開発に挑戦 現地向け実用的日本語会話の習得目指して制作

◆教材作りに挑戦した沖縄の学校法人ゴレスアカデミー 日本文化経済学院

日本に今、日本語教育機関は、約700校以上あるが、大半は、日本語留学生に日本語を教える段階で手一杯だ。何しろ日本の日本語学校にやってくる時に、留学生の日本語の実力は、一定水準の日本語に達していないケースが大半で、それだけ先生方の苦労は多いのだが、それをさらに日本語学校で教え、日本語能力試験 (JLPT) の3級、2級、さらには1級合格の水準に仕上げるのは、容易ではない。

さらには、必要な留学生向けの資料作成、それも膨大な量の資料と教材作り、学生の健康相談、日常プライベートの困りごとの相談、アルバイト先のトラブル相談、就職の世話等々、そうした地味だが大事な仕事と本来の日本語教育の授業の専念で、一日の大半が終わってしまう。仕事の大半をこれらの日常業務に充てている日本語学校が大部分である。

そうした日本語学校の忙しい合間を縫って、日本語会話を学ぶ動画映像の E ラーニングの制作に挑戦したのは、沖縄の日本語学校で、昨年開校 20 周年を迎えた学校法人ゴレスアカデミー 日本文化経済学院の仲田俊一理事長。同校は、これまでに 40 ヶ国以上の国々から 1600 人を超える若い日本語留学生を受け入れ、日本語を教えてきた実績を持っている。

仲田理事長は、日本語留学生の募集その他、日本語教育関係の仕事で、度々、東南アジアに出張しているが、その度に痛感し、また現地からの要望が多い筆頭が、日本で働きたい若者や日本に留学したい若者向けの教材に、良い教材が無いという声だった。現地の日本語学校で日本語を学んでも、日本ではまったく通用しない発音であったりして、母国での日本語習得に傾けたせっきくの努力が報われないケースが少なくない。

◆職員、留学生一体で作上げた日本語教材「ゴレス日本語すいすい」

日本留学希望者は、実際、東アジア、東南アジアを中心にたくさんいるが、現地の日本語学校で習う日本語教育は、実用性からは遠くかけ離れていて、発音も正確な日本語の発音とは程遠く正確ではなく、よく聞き取れず、日本語教育の現場や、技能実習にふさわしくない語学力であることを、仲田理事長も痛感した。

また、現地の日本語学校関係者からも「もっと実用的な日本語会話を習得できる教材

が欲しい」との希望が圧倒的に多かったことが、郷土愛の強い仲田理事長のチャレンジ精神を刺激した。とくに、ベトナム・日本文化交流センターの Ho Hoang Hoa 教授からは、ベトナムにおける日本語教育の現状と問題点を指摘され、適切な日本語教材の開発を強く推奨され、また自身もその必要性を感じた。

そこで、仲田理事長が忙しい日常の仕事の合間を縫って、「なんとか実用的な日本語会話の教材ができないか」と考えた結果、沖縄県中小企業課が「平成 30 年度の課題解決プロジェクト推進事業」の応募者を募っている事を知りチャレンジした。教材開発は学校法人ゴレスアカデミー（仲田理事長）が手掛け、販売事業は、新規に株式会社ジャイス（代表取締役仲田俊一）を設立しての 2 本立てにして、同推進事業には、株式会社ジャイスとして応募し補助金 500 万円を獲得できた。

同校は現地の若者向け用にと、職員・留学生一体になって工夫と努力を重ねて、約 1 年がかりで仕上げたのが、オリジナル e-learning 教材の「ゴレス日本語すいすい」だった。実際にゴレスアカデミーの留学生の意見なども多く採り入れて、実用会話の数々を初歩の段階から学び、習得しやすい内容に仕上げた。

◆N5 目指し英語、中国語、ベトナム語、日本語の 4 種の教材を作成

今回、開発された e-learning 教材「ゴレス日本語すいすい」(<https://youtu.be/PeKgv9ioFaw>) は、英語版、中国語版、ベトナム語版、それに日本語学校や日本語教師向けに作った日本語版の 4 種類がある。ゴレスアカデミー 日本文化経済学院の瀬底あけみ校長先生は、その制作意図について「この『会話で学ぶ生きた日本語 ゴレス日本語すいすい』は、海外で日本語を勉強している皆さんのための教材です。これまでお国で N4、N3 レベルを勉強していても、日本に来て日本人と会話するのは大変です。そこで、日本語の会話を聞く機会が少ない海外の方々のために、この教材を考えました。この教材で勉強することで、日本人と積極的に会話できるようになってください」と述べている。

教材は第 1 課の「日常のあいさつ（挨拶）」から始まって、第 30 課の「～たら ～ても」の未然形の会話まで、初級会話がこなせるよう丁寧に作られている。また、日本語教材は第 1 課から第 3 課の「お礼」の挨拶までは省かれ、第 4 課の「A は B です」の基本中の基本の会話から始まって第 6 課の「自己紹介」までが集約されて第 1 課として始まっており、後は同じである。

さらに、付録としてこの教材には、動画で「ひらがな、カタカナ、漢字の読み方や発音の練習」と、「ひらがな、カタカナの書き方」が紹介されているのも、他に得難い特色である。

とにかく日本語レッスンを始めようという気に自然となるように、キャッチコピーの「7 回見て、聞いて、N5 合格!!」という作成意図がよく伝わってくる教材である。つま

り日本語能力試験N5レベルの日本語の会話力が身につく教材になっていて、「だれでも かんたん 日本語すいすい」がもう1つのキャッチコピーになっている理由がよくわかる。

教材は、若い日本の男女二人の先生が、それぞれ自己紹介の挨拶から始め、次々に初歩の日本語会話を進めてゆくが、それぞれの会話の画面の下には、それぞれのお国の言葉で字幕が映る形式になっている。また、会話のスピードも、普通速度に加えて、ゆっくりした速度でも会話をリピートするので、覚えやすい特徴がある他、丁寧語の日本語も紹介されていて、幅広く初級の日常会話をこなせるようになっている。このため、キャッチコピーではないが、7回繰り返し聞けば、覚えられそうだ。

◆沖縄にも興味を持ってもらえるように工夫凝らす

日本語教材の購入対象はもちろん、①日本留学を目指す若者向け、②技能実習生として日本で働く希望を持っている若者向け、③今度の入管難民法の改正を踏まえて、介護、建設、航空、農業、漁業など新たにビザを取得できるようになった14職種などにも対応できるよう「高度専門職業人」や「新在留資格職業人」を目指して企業で働く目的を持った若者向け—の3者だ。

募集は以下の要領で行われている。

①のケースでは、海外エージェントや海外日本語学校などが日本留学希望者を募集して送り出す。留学生の受入れ先は「学校法人ゴレスアカデミー日本文化経済学院」である。同校は、授業を通して日本語のグレードアップを図り、日本の大学や専門学校、企業など、留学生の希望に応じて進学や就職ができるように支援する。この際、e-learning「ゴレス日本語すいすい」は、購入希望者には上下巻2枚セットの1万5000円で購入してもらう仕組みで、海外エージェント、海外日本語学校を通じて、ゴレスアカデミーから購入希望者に届けて現地で勉強してもらう。

発売は昨年12月25日から始まり、本年4月本校への入学申請者には全員購入を進めている。N5合格者には入学時にキャッシュバックすることになっている。

②のケースでは、海外の送り出し機関が、技能実習生を希望する若者を募集し、受入れは沖縄県人材育成事業協同組合が窓口になる。そこで「実習」ができる就職先を斡旋し、企業などに送り出す。

③のケースでは、海外取次機関が募集業務を行い、高度専門職業人や新在留資格職業人を希望する者を募集し、日本に送り出す。この職種を希望する若者は、株式会社ジャイスから送られた「ゴレス日本語すいすい」で勉強してもらって日本語を上達してもらい、その後に、(株)ジャイスから、それぞれの希望に応じて希望先の企業などに「就職」を斡旋するシステムになっている。

瀬底校長先生も「この教材には、勉強した文型をつかった会話のシーンが各課にあり

ます。難しい言葉もありますが、何回も聞いて、そして何回も声に出して練習して、日本人と話せるようになってください。日本語がわかる、日本語で話せる、日本語の勉強が面白い、と感じてもらえるように工夫しました」と述べている。

さらに「ゴレス日本語すいすい」の会話の中では、日本文化経済学院がある沖縄のことも色々画面に出てくる。例えば同学院の他に、首里城、その他の美しい風景も出てきて日本だけではなく「沖縄に興味を持ってもらえると嬉しい。ぜひ沖縄に来てください」とも呼び掛けて、沖縄の日本語学校ならではの特色も出している。

◆「ちむぐくる」と「守礼」の心が生んだ日本語教材

仲田理事長は、この教材作りを通して一番感じたこと、思ったことは何か問うと「世界が評価・期待している日本文化力、経済力に比して、われわれ日本人の日本語の普及努力が足りない。まして政府・行政の方針は、現状は無策に等しい。もっと普及努力をお願いしたい」と手厳しい答えが返ってきた。日本語学校が初めて挑戦した独自の日本語教材の活用がどこまで広がるか、先行きが楽しみである。

ちなみに、校名の「学校法人ゴレスアカデミー 日本文化経済学院」のゴレスは、かつて東南アジアでは沖縄から来た商人が「ゴレス人」と呼ばれた故事に由来している。仲田理事長は「沖縄は長く、東アジアの国々と交易して栄えてきました。中国とも深い関係を持ち、文化にもその影響が表れています。また、東南アジアでは、沖縄からきた商人は、『ゴレス人』と呼ばれ、大変信用されていました。そうした歴史が、争いを好まず、武器も持たず、平和を愛する穏やかな沖縄の人々を育てました。日本の亜流ではなく、独自の精神風土<肝心=ちむぐくる>（相手に対する深い思いやり）を持つ自分たちの文化に誇りを持ち、外国からの留学生を迎え入れたいものです」と学校案内でも、古代から交易精神が横溢な沖縄の歴史・文化に深い愛情を注いだ挨拶をしている。まさに、「ゴレス日本語すいすい」は、「ちむぐくる」と「守礼」の心が生んだ教材であろう。

なお、教材についての問い合わせは、以下の通りである。

（学校法人ゴレスアカデミー 日本文化経済学院） Eメール：info@gores.ac.jp

〒900-0036 沖縄市西2丁目12-14 TEL:(81)98-869-8686 FAX(81)98-865-3230